

盛口 満¹・佐藤 寛之²・宮城 竹茂³：

屋那覇島（沖縄諸島）から採集された漂着種子：マメ科トビカズラ属の一種（*Mucuna* sp.）の開花、結実の報告

Mituru MORIGUTI¹, Hiroyuki SATOU² and Takesige MIYAGI³: The report for blooming and fruiting of the drifting seed of *Mucuna* sp. (Leguminosae) collecting from Yanaha Is. of Okinawa Group in Ryukyu Archipelago

著者らは2001年沖縄県那覇市に設立された、主に中、高生を対象とした教育機関であるNPO 珊瑚舎スコーレの活動に関わっている。この野外活動時において採集された漂着種子を栽培した結果、琉球列島を含む日本には自生していない種のトビカズラ属（*Mucuna* sp.）のマメが、発芽、開花、結実にいたったので報告する。

資料を得たのは2004年4月10日、沖縄島西方海上に位置する伊是名島沖の無人島、屋那覇島における野外活動時であった。沖縄島やその周辺の離島の海岸において漂着種子自体は珍しくはない。しかし沖縄島に自生していない、沖縄島より南方の地域から海流によって漂着する種子が見つかる場所や季節は限られる。これは黒潮が沖縄島の西方沖を流れていることに関係している。結果、南方系の漂着種子は、北西の季節風が卓越する冬季に、沖縄島の西海岸や沖縄島の西方海上に位置する離島の海岸でより発見される（盛口 2004）。

島の海岸において著者のひとりである宮城が見つけたものが、ハンバーガーマメと俗に呼ばれる、ふくらみの大きなトビカズラ属と思われる漂着種子であった。これと同様の種子は沖縄島やその近隣離島から、これまでも見出されている。しかしこのときに見つけ出された種子は、種皮が一部割れており、発根しかけた状態のものであった。このような種子をつけるトビカズラ属は日本からは知られておらず、種子からだけでは同定が困難であるのだが、もし栽培に成功して植物体を観察できれば、種名の同定も可能になるのではと考えられた。そこで那覇に戻った後、珊瑚舎スコーレのベランダにおいてその栽培を試みた。

トビカズラ属の一種は順調に発芽し、蔓を伸ばし始めた。当初はベランダでの栽培であったのだが、生育がよくなりすぎたために、種子を採集して2年後の2006年初夏に、苗を南城市佐敷馬天にある、珊瑚舎スコーレの畑に移植した。丘陵部の日当たりのよい斜面に露地植えをすることとし、蔓は斜面に生えるアカギにからませた。この苗が無事、冬も越し、翌、2007年5月下旬になって、思いもよらぬことに開花した。

樹幹からんだ蔓から長い柄がたれ、その先に花序をつけるさまは、全体として、八重山地方に自生するワニグチモグマ（*M. gigantea*）に似ている。ひとつの花はガクの根元からの長さが6cmほどである。旗弁の色は黄緑色で翼弁と竜骨弁は黄色である。またひとつの花序には花が9個ついていた。（図1）同じく八重山に自生するもうひとつのトビカズラ属であるカショウクズマメ（*M. membranacea*）は花の翼弁や竜骨弁は黒紫色をしている。

さらにその後、4房咲いた中から、2個の果実が結実した。花粉媒介者が誰であるのかははっきりしてはいないが、珊瑚舎スコーレの関係者によってメジロが吸蜜にきていることが観察されている。残念ながら2個の果実のうち1個は7月中旬に島を襲った台風4号の暴風によって、未熟なうちに落果してしまった。残る1個は8月21日に採集したところ、果皮は黒ずみ、裂開しかけていた。花序のさまはワニグチモグマに似ていたが、この果実の形態は一部、カショウクズマメのほうに類似点が見られた。果実はカショウクズマメと同様に側面にひだがあり、これも同様にその表面に刺毛が密生している。（こうした特徴はワニグチモグマでは見られない）ただし、カショウクズマメに比べ、ひだの発達は弱く、一方で果実はより大きく13cmある（図2）。

以上のような花序、果実の特徴は Perry IV and Dennis (2003) によると *Mucuna sloanei* にその特徴が一致するように見受けられる。ただし Gunn and Dennis (1999) においては *M. sloanei* の分布は“New World”



図1. 開花したトビカズラ属（*Mucuna* sp.）の一種
（撮影 星野人史）

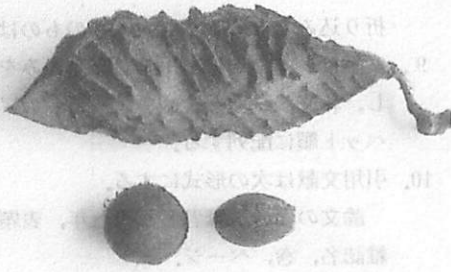


図2. トピカズラ属の一種の果実と種子
(撮影 星野人史)

今後、漂着した種子の中から自然にこのような生育を見せているものはないかということに、留意する必要があると考えられる。

とされており、沖縄に漂着するトピカズラ属の供給源にこの種が分布しているのか確定できなかった。そのためこの報告では種名を *Mukuna* sp.にとどめおくこととする。

今後、東南アジア等、沖縄をはじめとする日本に漂着する種子の供給源になりうる地域に *M. sloanei* が分布しているかどうかを確認していく必要があるであろう。また漂着する、俗にハンバーガーマメと呼ばれるトピカズラ属の種子の中に、複数種が混じっている可能性もある。さらに琉球列島に自生していないトピカズラ属のマメが沖縄島で露地栽培によって開花、結実したことから、他の漂着種子でも同様の試みがなせないかさぐってみることも可能であろう。くわえて

引用文献

Gunn, C. R. and Dennis, J. V. 1999. World Guide to Tropical Drift Seeds and Fruits. 240pp. Krieger Publishing Company, Florida.
盛口 満. 2001. 西表島の巨大なマメと不思議な歌. 221pp. どうぶつ社, 東京.
Perry IV, Edward L. and Dennis, John V. 2003. Sea-Beans from the Tropics. 217pp. Krieger Publishing Company, Florida.

(Received Aug. 23, 2007; accepted Sept. 11, 2007)

¹ 〒902-8521 沖縄県那覇市国場555 沖縄大学人文学部こども文化学科 ¹Department of Children and Culture, Faculty of Humanities and Social Sciences, Okinawa University, 555, Kokuba, Naha-shi, 902-8521
^{2,3} 〒900-0022 沖縄県那覇市桶川1-28-1 珊瑚舎スコレ ^{2,3} Sangosya-schole 1-28-1, higawa, Naha-shi, 902-0022